

# ⑬茶園整備と複合作物導入による労働力確保と経営強化 【株式会社蔵田茶農園（藤枝市）】

基盤整備

雇用創出

生産性向上

## ■活用した事業

「水利施設等保全高度化事業（畑地帯担い手育成型）瀬戸谷地区（平成31年～令和6年度）」を活用し、荒廃茶園の基盤整備を実施。

「ChaOI プロジェクト推進事業費補助金（令和4年度）」を活用し、茶の複合作物での「かんしょ」を栽培。

## ■経営の概況

前身は昭和54年に設立された蔵田茶農業協同組合。組合員の高齢化や茶価の低迷などにより、組合員数が年々減少したため、平成30年2月に茶農協から株式会社へと組織変更した。栽培面積は約9ha。生葉生産者は4名。栽培品種は「やぶきた」が約95%を占める。残りは「ふじえだかおり」、「おくみどり」、「さやまかおり」など。

栽培方法は、慣行栽培（約4.5ha）と有機栽培（約4.5ha）で行っている。有機栽培については有機JAS認証を取得済。茶の栽培・荒茶加工に加えて、年間を通じてレタス、ブロッコリー、かんしょ、トウモロコシなどの野菜類や柿の生産にも取り組んでいる。

## ■取組内容

### 基盤整備

当該茶園（約1ha）は、基盤整備前には41名の地権者が存在していたが、4名へと集約された。小規模茶園や放棄茶園が混在し、畝方向も不統一であったため、畝方向を統一した。さらに、乗用型管理機が利用できるよう、枕地、機械進入路、園内作業道を整備し、園地の斜度も10度に調整した。その後、苗の植え付けを行った。

### かんしょ栽培

経営の安定化を図るため、就労機会の確保および年間雇用の安定を目的として、作業時期が一番茶の摘採期と競合しにくい「かんしょ」の栽培拡大（25a）に取り組んだ。



茶園の様子



工事の様子



畝方向が統一された茶園



販売商品「べにはるか」

<写真：蔵田茶農園>